

平成20年度決算の概要

去る十二月十六日から開催された町議会第四回定例会で平成二十年度の一般会計と七つの特別会計の決算が認定されました。町民の皆さんの税金がどう使われたのか、財政状況はどうなっているのか、二つの企業会計と合わせその概要をお知らせします。

実質収支は三億七千万円の黒字

一般会計（行政運営の基本的な経費をまとめた会計）の平成二十年度決算は、歳入が前年度比1・1割増の八十四億八千八百四万円、歳出が4・3割減の七十八億三千三百十五万円でした。歳入から歳出を差し引いた収支は六億五千四百八十九万円で、このうち、平成二十一年度への繰越明許費繰越額として二億八千五百三十一万円、財政調整基金へ三億円積み立て、残る三億六千九百五十八万円が平成二十年度の実質的な黒字額であり、同額を平成二十一年に繰り越しました。

基金の取り崩しで収支均衡が

平成二十年度は黒字決算となりましたが、実際には、基金といわれる町の貯金を約六億二千七百万円を取り崩しての黒字であるため、この基金を取り崩さなければ、約二百七十七万円の黒字だったこととなります。しかし、この黒字決算についても、平成

十七年度から実施してきた職員人件費などの独自削減策を、平成二十年度においても継続実施し、約二億五千二百六十万円の財源捻出によるものであり、この独自削減を講じなければ約二億五千万円が赤字だったともいえます。

この背景には、国における三位一体の改革による地方交付税（平成二十年度では厚岸町の歳入全体の約45割を占める）の削減によるものであり、地方交付税交付額がピークであった平成二十年度との比較では、約十二億四千万円もの削減となっています。町ではこのように厳しい財政環境下にあることから、町税などの歳入の確保に努める一方、歳出面では町職員の退職者不補充による定員の削減を行い、また独自の給与削減などにより歳入全体の減少額を補っています。



町の自主財源は29パーセント

歳入には、町が独自確保できる『自主財源』と国や道から交付される『依存財源』があります。自主財源は町の財政力を図る目安となります。この自主財源にあたる町税や使用料、手数料、負担金、分担金、財産収入などが多いほど、町の財政力が強いということになります。

平成二十年度の一般会計の自主財源は、約二十四億五千七百二十万円で歳入全体の約三割にあたる29割で、残りの七割は国や道からの交付金や補助金、そして長期借入金などで賄っています。

特別・企業会計も厳しき続く

七つの特別会計と二つの企業会計の決算状況は左記の表のとおりとなっています。

特別会計では、ほとんどが収支の均衡を保っているかのように見えますが、実際は一般会計から約五億二千九百万円を繰り出し、収支のバランスを保っているのが現状です。

なお企業会計の決算状況については、病院事業会計は、広報あつけし（平成二十一年十二月号で特集）、水道事業会計は、水道広報すいげん（今月広報誌と同時配布しています）をご覧ください。



町民一人あたりの借金は約百二十万円、貯金は約五万五千元

まちづくりを進めるうえで、道路や学校などの大型事業を行う場合、町税だけではまかなうことができません。

そこで財源の一部として町が借入れた町債の残高は、平成二十年度末で約十二億三千万円で、町民一人あたりに換算した場合、約百二十万円となります。

また、公債費（町債の元金及び利息の返済に要する経費）は約十二億五千万円で、同じく一人あたりに換算した場合、約十一万二千円を一年間で返済したことになります。

一方、町の貯金といえる基金の総額は、平成二十年度末で約七億六千万円ですが、特定の目的に用途が限定されている基金を除いた額は約六億七千万円で、一人あたりすると約五万五千円にしかありません。借金の残額と比較しても貯金がすでに底をついている状態です。

● 財政状況についての問い合わせ／税財政課 財政係 ☎内線132

● 平成二十年度の各会計の決算資料は、役場情報公開コーナー、本の森厚岸情報館で閲覧できます。



特別会計

特別会計	収入額	支出額	一般会計からの繰出金
国民健康保険	16億8346万円	16億1824万円	1億1727万円
簡易水道	4833万円	4833万円	686万円
老人保健	1億2750万円	1億1369万円	0万円
下水道	6億338万円	6億338万円	2億2029万円
介護保険	8億5515万円	8億813万円	1億2210万円
介護サービス	3億1860万円	3億1860万円	2991万円
後期高齢者医療	9974万円	9932万円	3233万円

企業会計

■水道事業会計			
収益的収入	2億2764万円	収益的支出	2億4205万円
資本的収入	1億6004万円	資本的支出	2億4779万円
一般会計からの金	655万円		
業務量	給水人口 9,964人 (166人増) 給水戸数 5,848戸 (287戸増) 配水量 1,334,341m ³ (65,131m ³ 減)		
■病院事業会計			
収益的収入	12億8495万円	収益的支出	12億7706万円
資本的収入	1億6380万円	資本的支出	1億6385万円
一般会計からの金	4億3796万円		
業務量	入院患者延べ 21,611人 (3,673人減) 外来患者延べ 62,055人 (713人減)		

■各基金の残高		
基金名称	基金目的	基金残高
財政調整基金	年度間の財政不均衡を調整する財源のための基金	3億5067万円
減債基金	町債償還に必要な財源のための基金	2億5674万円
特定目的基金		1億5082万円
地域づくり推進基金	地域づくりを行う事業の財源のための基金	8785万円
老人福祉基金	老人福祉を推進する事業の財源のための基金	1065万円
まちおこし基金	地域活性化、地域振興事業の財源のための基金	1978万円
環境保全基金	環境への負荷軽減、環境保全活動の財源のための基金	3125万円
町営住宅敷金利子基金	町営住宅共同施設の建設等の財源のための基金	129万円
基金合計		7億5823万円